

## ボーリング柱状図

## 調査名 平成28年度 大畔谷川通常砂防事業に伴う業務委託

ボーリングNo. 5 2 3 3 0 1 3 0 1 3 0

## 事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	Bor No.4(No.2+1.8 CL)	調査位置	広島県府中市上下町	北緯	34° 41' 58.4000"				
発注機関	広島県東部建設事務所	調査期間	平成28年10月31日～平成28年10月31日	東経	133° 07' 32.9000"				
調査業者名		主任技師	現代理人	口鑑定者	ボーリング責任者				
孔口標高	GH 422.38m	角度	180° 上 下 90° 0° 0°	方位 0北 270° 西 180° 南 90° 東	地盤勾配 36° 水平0° 鉛直 直 90°	使用機種 試錐機 エンジン	東邦製D-0型 ヤンマーF10型	ハンマ一落下用具 ボンブ	半自動型 東邦製BG-3型
総掘進長	4.00m								

< 凡例 > 二三種數區分割定義

コア硬軟区分判定表	
記号	硬 軟 区 分
A	極硬、ハンマーで容易に割れない。
B	硬、ハンマーで金属音。
C	中硬、ハンマーで容易に割れる。
D	軟、ハンマーでボロボロに碎ける。
E	極軟、マサ状、粘土状。

固化区分表

記号	風化の程度
$\alpha$	非常に新鮮である。
$\beta$	新鮮である。層理面、劈開に沿ってわずかに変色があり割れ易い。
$\gamma$	弱風化している。層理面、劈開に沿って風化している。
$\delta$	風化している。若芯まで風化している。ハンマーで簡単に崩せる。
$\epsilon$	脆壊している。岩盤全体が脆壊する。
$\zeta$	脆壊している。岩盤全体が脆壊する。

記号	変質区分	変質状況	
		肉眼的	顕微鏡的
1	非変質	肉眼的に変質痕跡が認められないもの。	
2	弱変質	原岩組織を完全に残し、変質程度が低いもの。 または、非変質層の割合が地殻で50%以上のもの。	
3	中変質	肉眼で変質が比較的強く、判別できるが原岩組織を明らかに識別するのに原岩組織と顕微鏡的組織を用ひる。	
4	強変質	成岩物、岩脈等の変質物を完全に覆され、原岩組織を全く 見出せないもの。	

### コア割れ目状態判定表

記号	割れ目状態区分
a	密着している。あるいは分離しているが割れ目沿いの風化・変質は認められない。
b	割れ目沿いの風化・変質は認められるが、岩片はほとんど風化・変質していない。
c	割れ目沿いの風化・変質は認められ軟質となっている。
d	割れ目として認識できない角礫状・砂状・粘土状コア。

ヨニア形状区分判定表

記号	模式図	コア形状
1		長さが50cm以上の棒状コア。
2		長さが50~15cmの棒状コア。
3		長さが15~5cmの棒状へ片状コア。
4		長さが5cm以下の棒状へ片状コアでかつコアの外周の一部が認められるもの。
5		主として角礫状のもの。
6		主として砂状のもの。
7		主として粘土状のもの。
8		コアの採取が出来ないもの。スライムも含む。(記事欄に理由を書く)

借 者